
第3期 琴浦町地方創生総合戦略

SDGsの理念に基づく持続可能な地域社会の実現

鳥取県琴浦町

令和7年4月

… 目 次 …

1 基本的な考え方

(1) はじめに	1
(2) 第2期琴浦町まち・ひと・くらし創生総合戦略の成果と課題	1
(3) 人口に関する基本的な考え方	2
(4) 策定のプロセス	3
(5) 計画期間	4
(6) 基本目標の設定と施策の推進・検証	4

2 5つの重点戦略

(1) 戦略体系図	5
(2) 各分野の数値目標と具体的取り組み	
・ 基本目標【1】 こども	6
・ 基本目標【2】 すこやか	1 1
・ 基本目標【3】 しごと	1 4
・ 基本目標【4】 ひと	1 7
・ 基本目標【5】 くらし	2 0

1 基本的な考え方

(1) はじめに

本町では、ひとの活力がまち全体の元気と希望につながるという理念のもと、令和2年に「第2期琴浦町まち・ひと・くらし創生戦略（以下「第2期戦略」という。）」として、令和6年度までの5年間の戦略を策定しました。

第2期戦略では、町民が「住んでよかったと誇れるまち」、「帰って来たいと思えるまち」、「町外からも住んでみたいと思われるまち」を創ることを目指してきました。新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったですが、アフターコロナにおいては子育て教育・経済産業・観光交流分野については回復傾向が見られました。関係定着については社会移動による人口減少^{※1}を抑制することはできませんでしたが、移住者数が目標達成するなどの成果を得られました。

「第3期琴浦町地方創生総合戦略（以下「第3期戦略」という。）」では、こうした第2期戦略の取り組みを検証した上で、アンケートやワークショップなどにより集めた町民の声を基に、効果的で実効性のある取り組みを選定しました。また、国のデジタル田園都市国家構想総合戦略の基本的考え方の「デジタルの力を活用した地方創生の実現」を踏まえ、デジタル活用による効率的な生活及び社会課題の解決を目指す視点も取り入れ、第3期戦略の策定を行いました。

(2) 第2期琴浦町まち・ひと・くらし創生戦略の成果と課題

第2期戦略では、次の5項目の分野を設定し、重点項目と数値目標を定めて取り組みを行ってきました。

- 1 子育て・教育
- 2 健康・活力
- 3 経済・産業
- 4 観光・交流
- 5 関係・定着

それぞれの分野の数値目標に対する令和5年度までの達成状況は、次表のとおりとなっています。

第2期戦略の4年間の実績から目標達成が可能な項目をみると、「農林水産業の仕事にチャレンジできるまち」、「人を観光で呼び込めるまち」、「町外からも住んでみたいと思われるまち」といった特徴が挙げられます。これらは、本町の強みと考えられます。

※1) 社会移動による人口減少数
転入者数から転出者数を差し引いた数

〔第2期戦略における令和5年度までの数値目標の達成状況〕

項目	目標値 (R6 末)	実績 (R5 時点)	達成見込
【子育て・教育】			
安心して生み育てることができる環境を守り、ふるさとを誇りに思う教育を進める			
合計特殊出生率※2 (R1～R5 の平均値)	1.80 人	1.61 人	
【健康・活力】			
全世代が活躍する健康寿命日本一のまちを目指す			
介護を要する期間の短縮 ※男性 0.5 年短縮、増加はマイナス評価	1.6 年	2.2 年	
介護を要する期間の短縮 ※女性 0.5 年短縮、増加はマイナス評価	3.9 年	4.8 年	
【経済・産業】			
産業振興を図り、持続可能な地域経済の好循環を実現する			
町内企業就職者数 (R2～R6 の累計)	1,135 人	795 人	
農林水産業の新規就業者数 (R2～R6 の累計)	30 人	30 人	○
【観光・交流】			
人を地域の中に呼び込む観光を展開し、町産業全体の活性化につなげる			
観光入込客数	900,000 人	837,705 人	○
観光分野における新規事業等での雇用創出数 (R2～R6 年度の累計)	10	5	
【関係定着】			
暮らし続けることができるまち、そして選ばれるまちをつくる			
人口の社会減数 (R2～R6 の累計)	200 人	357 人	
IJU ターン者数の人数	750 人	625 人	○

(3) 人口に関する基本的な考え方

第3期戦略では、第2期戦略と同様に町全体の人口目標は設けないこととしました。日本全体の人口が減少する中、他の自治体と人口の奪い合い競争をするのではなく、人口が減っても、地域経済の発展を図り、誰一人取り残すことのない「持続可能なまち」を創ることが重要と考えるからです。

そのためには、将来の町を担う人材の育成が大きな目標となります。また、観光との連携によって地域外（海外含む）から適度な外貨を取り込むとともに、地域内経済の循環による自律的な発展が不可欠です。

第3期戦略では、本町がこれまで取り組んできた特色を活かして5つのプロジェクトに重点を置きます。町の魅力を向上させ、町民の皆様が自分らしく豊かな人生を送ることができる琴浦町を目指します。

※2) 合計特殊出生率

一人の女性が一生に産む子どもの数の平均値

(4) 策定のプロセス

本町は、「町民がこれからも住み続けたいと思える豊かなまち」を創ることを目指します。そこで、第3期戦略は、第2期戦略の検証結果と町民（子どもから高齢者まで）の意見に基づいて、策定することとしました。

第2期戦略の検証結果及び町民の意見を基に、本町が今後、政策の重点項目として、次の5つの分野を設定しました。

- 1 こども
- 2 すこやか
- 3 しごと
- 4 ひと
- 5 暮らし

町民の意見については、第2期戦略と同様にアンケート、ワークショップを実施しました。

アンケートでは、無作為で選んだ町民2,000人（16歳以上）に調査票を配布したところ、486人（紙356人、電子130人）の方から回答があり、これから取り組むべき課題などのご意見をいただきました。

また、ワークショップを2回開催し、高校生から高齢者の方や役場職員が延べ50名が参加し、本町の未来について一緒に考え、話し合いを行いました。ワークショップにて町の課題、解決に向けた施策、数値目標等が具体的に示され、第3期戦略策定の参考にしました。

これに加え、新たな取り組みとしてオンライン参加型の合意形成プラットフォーム（Liqlid（リクリッド））にて町民の意見を広く募集し、アンケートやワークショップに参加できなかった町民の意見も参考にしました。

[町民の意見]

これ以降の各取組の基になった又は参考としたアンケート、ワークショップ及びLiqlidでの意見を、次のように記載しています。

◆町民の意見◆……………それぞれの分野における具体的施策に掲載しています

この欄には、町民の意見のうち、具体的な取り組みへとつなげることができた主な意見を記載しています。

[SDGs]

持続可能な開発目標：SDGs(Sustainable Development Goals)とは、2015年9月の国連サミットで採択された2030年までの国際目標であり、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットから構成されています。

SDGsは誰一人取り残さない社会の実現のために、様々な関係者がそれぞれの分野や立場を超えて、協働して取り組むことを課題解決のアプローチとして考えています。このことは、地域の課題解決を地域全体として自主的に取り組んでいく地方創生の考え方と共通しています。

第3期戦略では、第2期戦略から引き続き、取り組むべき施策がSDGsのどのゴールの達成に寄与しているのかを分かりやすく表示するため、各分野の上段に17のゴールに対応するアイコンを記載しています。なお、17のゴールそれぞれのアイコンは裏表紙に掲載しています。

(5) 計画期間

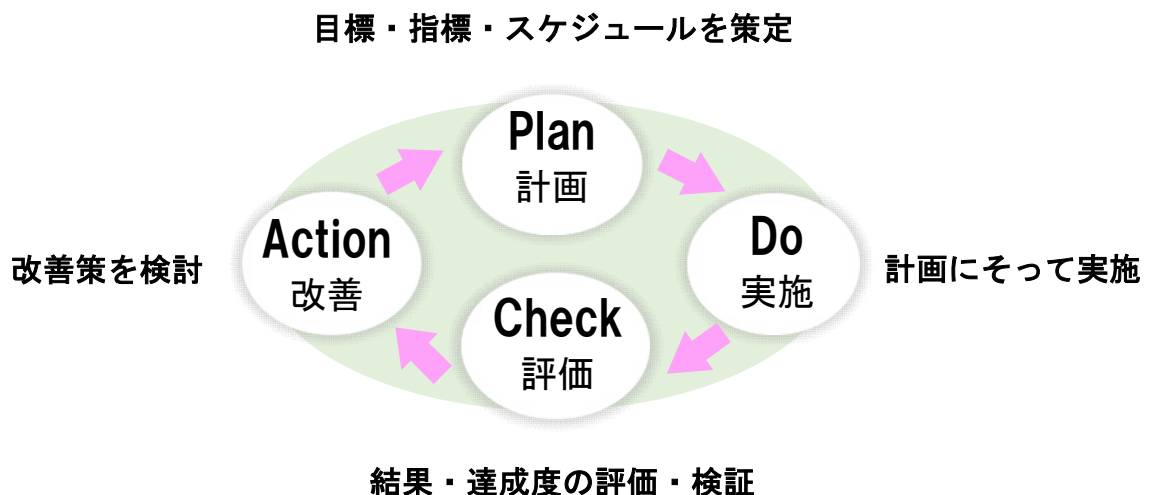
令和7年4月1日から令和12年3月31日までの5年間とします。

(6) 基本目標の設定と施策の推進・検証

本町における5年後の基本目標を定めます。この基本目標は、事業そのものの結果（アウトプット）ではなく、その結果として町民にもたらされた便益（アウトカム）に係る数値目標とし、この基本目標の実現に向けた基本的方向と具体的な施策を記載し、施策の効果を客観的に検証できる指標（KPI;Key Performance Indicator）を定めます。

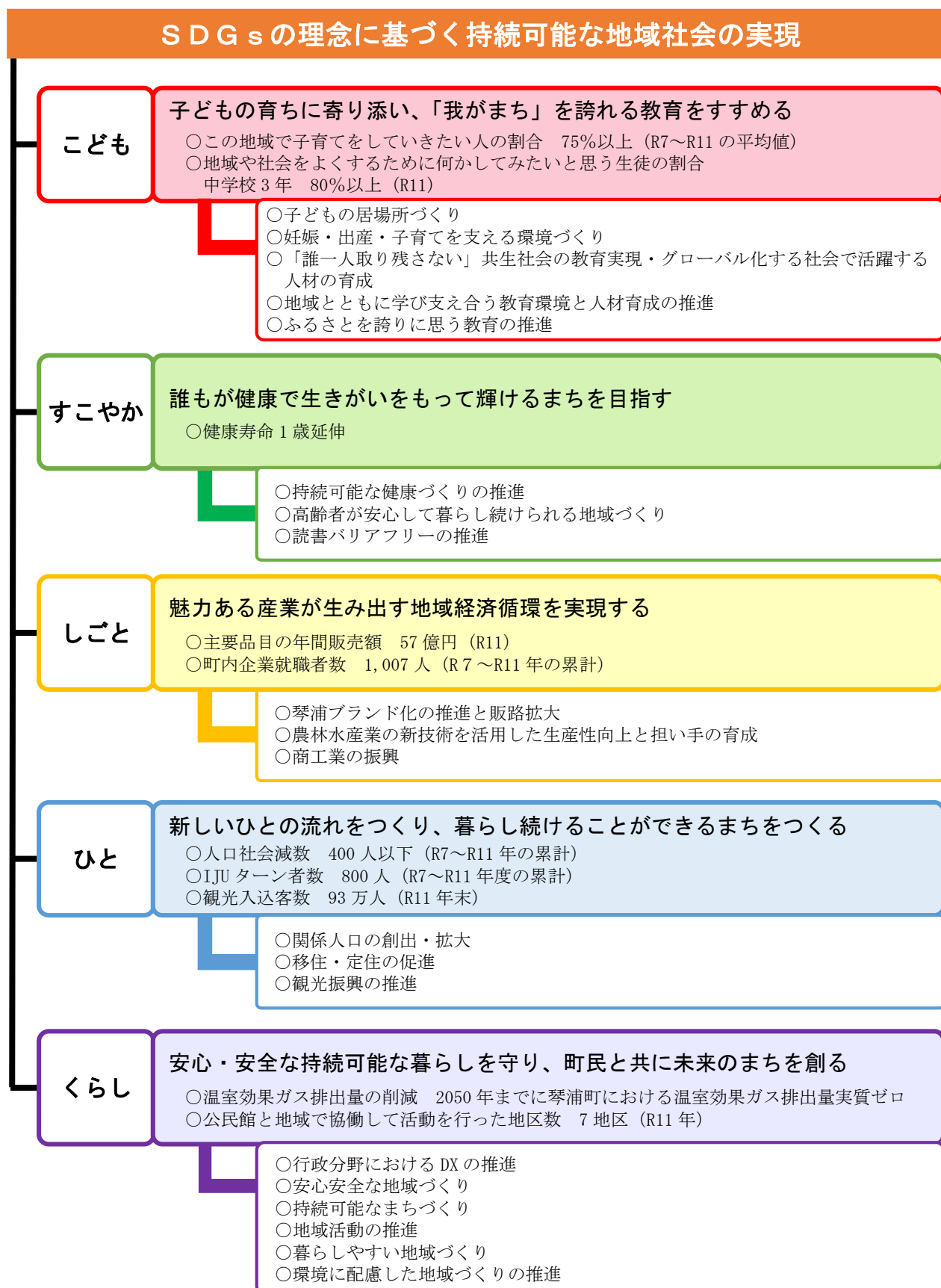
また、町長を本部長とする「琴浦町地方創生推進本部」において、施策の実効的推進を図るとともに、産官学金労言士の有識者で構成された「琴浦町地方創生推進会議」等で取り組み内容を検討し、改善する仕組み（PDCAサイクル）を確立します。

PDCA サイクル



2 5つの重点戦略

(1) 戦略体系図



(2) 基本目標ごとの数値目標と具体的取り組み



基本目標 【1】	【こども】 子どもの育ちに寄り添い、「我がまち」を誇れる教育をすすめる
本町の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの居場所となる環境の整備を行ってきました。また、地域での居場所となる広場の整備について支援を行っています。 ○妊娠・出産・子育てに対する一人ひとりの希望に寄り添う子育て支援の取り組みとして、町独自の保育料第2子以降無償化など多子世帯を応援してきました。また、家庭での子育てを希望する世帯には経済支援を行い、希望する子育ての実現を支えています。 ○手厚い保育士配置基準による質の高い保育の提供や子育て家庭が集える場所の確保に努め、安心して働くことのできる基盤を作っています。 ○誰一人取り残さない質の高い教育の実現を目指して、早期に一人一台の情報端末を整備し、教育DXの推進をすすめています。 ○「琴浦 My スター☆事業」として、それぞれの学校が地域の自然や歴史、文化、産業、人材を題材とした体験活動を通じて、ふるさとを誇りに思う教育、地域を支える人材の育成を目指しています。 ○近年、本町では、個別の支援を必要とする児童生徒、不登校の児童生徒が増加の傾向にあります。一人ひとりに最適な学習の推進と学習機会の確保が課題となっています。 ○地域の人や自然・歴史・文化等を活用して地域を知る、地域の良さに気づき、地域に暮らす人々の生き方に学ぶ社会教育活動を行っています。地区公民館活動では、地域の特徴を活かした体験活動や交流の場づくりに力を入れています。
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> ○この地域で子育てをしていきたい人の割合（R7 から R11 までの平均値）75%以上 ※基準値 71.4%（R2 から R5 までの平均値） ○地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う生徒の割合（R11）中学校3年 80.0%以上 ※基準値:77.1%（R6）
基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○既存の施設を活用した子どもの居場所づくりを行い、子どもを育てやすい環境をつくれます。 ○手厚い子育て支援により、「子育てするなら琴浦町」と評価され、人が移り住みたくなるまちを目指します。

	<p>○地域ぐるみのふるさと教育により、子どもたちがまちの一員として人との関わりや地域を大切にする心を培います。ふるさとへ誇りと愛着を深め、将来的な定住化・関係人口化につなげます。</p> <p>○ふるさと教育により、地域に対する誇りを育み、一度は町外に出ても町との関係を持ち続け、いつか琴浦に帰ってくるひとづくりを行います。</p>
--	---

《具体的な施策と重点業績評価指標(KPI)》

① 子ども居場所づくり

- 地域の人材を活用し、地域の中で子どもを見守り・育てる体制づくりを推進します。

重点業績評価指標 (KPI)	目標値	基準値
放課後子ども教室開催の地区公民館数	3カ所 (R11)	2カ所 (R6)

【具体的な事業】

- ・既存施設を活用した学びと遊びの場の整備
- ・放課後子ども教室の推進
- ・こども食堂、地域食堂の推進

◆アンケート、ワークショップ、Lialid等の意見◆

- ・雨天でも遊べる場所、公園
- ・子ども達の第3の居場所（家、学校以外）
- ・学校に近い場所で公民館機能併設
- ・子連れで利用しやすい施設の充実

② 妊娠・出産・子育てを支える環境づくり

- 妊娠期から出産・子育て期にわたる切れ目ない支援を充実させ、きめ細やかなサポート体制を整備します。
- 「こども家庭センター すくすく」を設置し、妊産婦や子育て家庭の不安や悩みに寄り添い、多様なニーズに対する支援を関係機関と連携して行います。

重点業績評価指標 (KPI)	目標値	基準値
この地域で子育てをしていきたい人の割合 (R7 から R11 までの平均値)	75%以上 (R11)	71.4% (R2 から R5 までの平均値)

【具体的な事業】

- ・子育てサービスの充実（こども誰でも通園制度事業の実施、地域子育て相談機関の設置）
- ・特別支援教育の充実（人的物的環境と人材育成）、円滑な幼保・小接続、研修機会の提供
- ・こども家庭センターの設置（母子保健と児童福祉の一体的相談支援の実施）

- ・地区公民館の乳幼児学級
- ・ワーク・ライフ・バランスの推進（啓発・支援等）

◆アンケート、ワークショップ、Liquid等の意見◆

- ・現金での子育て支援が1番目に見えてありがたい
- ・病児保育はとても必要だと思う
- ・多子世帯などの支援の充実
- ・発達障がいの子どもの支援や相談窓口の設置

③「誰一人取り残さない」共生社会の教育実現・グローバル化する社会で活躍する人材の育成

- 1人1台端末の効果的な利活用を通じて、子どもたちの情報活用能力の向上と指導者の能力向上を図ります。
- デジタル教材や教育用ソフトウェアの活用により、主体的、協働的な学びを推進するとともに、教職員の負担軽減に繋がります。
- 多様化する子どものニーズに対応し、一人ひとりに応じた支援体制の構築や校内サポート教室といった学びの場を確保します。
- 個人の特性や環境にあわせた教育機会の確保に対する支援を行うなど、学びのセーフティーネットの構築を推進します。
- 児童生徒が、異なる文化に触れることで国際理解を深め、グローバルな視点や考え方を育くみます。

重点業績評価指標（KPI）	目標値	基準値
授業でICT機器を週3回以上使用する割合	80.0%（中学校）	54.9%（R6中学校）
学校に行くのは楽しいと思う割合	85.0%（中学校）	84.8%（R6中学校）

【具体的な事業】

- ・1人1台の情報端末整備（第2期）
- ・デジタル教材、教育用ソフトウェアの活用
- ・学校現場の働き方改革の推進
- ・校内サポート教室の整備
- ・スクールソーシャルワーカー、特別支援コーディネーター等の配置
- ・フリースクール利用料等助成
- ・台湾台中市の中学生との相互交流の実施

◆アンケート、ワークショップ、Liquid等の意見◆

- ・引きこもり支援をしてほしい
- ・オンラインスクールがあったらいい
- ・家庭の教育力をつけること
- ・学校、教育への支援の充実（不登校支援、安心した環境で学校生活を送れる、オンラインを活用するなど）

④ 地域とともに学び支え合う教育環境と人材育成の推進

- 学校、保護者、地域の皆さんがともに知恵を出し合い、一緒になって子どもたちの成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」をすすめます。
- 子どもたちの安心・安全の教育環境のため、学校・給食センター施設の適切な維持管理とあわせて機能・設備の向上のための改修工事をすすめます。
- 地域や小学校で活動している読書ボランティアを支援し、地域における子どもの読書活動を推進します。

重点業績評価指標 (KPI)	目標値	基準値
学校支援ボランティアの登録数	150 (R11)	150 (R6)
読書ボランティア支援にかかる講座、研修数	1 (R11)	1 (R6)

【具体的な事業】

- ・ コミュニティ・スクールの運営支援
- ・ 学校・家庭・地域連携の推進
- ・ 教育環境の適正管理（学校設備・給食センター機器の更新）
- ・ 部活動の地域連携促進
- ・ 子ども読書活動の推進

◆アンケート、ワークショップ、Liqid等の意見◆

- ・ リモート学習、リモート学習塾の開設
- ・ ICT活用で教育に従事する人の負担が軽減されると良い

⑤ ふるさとを誇りに思う教育の推進

- それぞれの学校が独自に地域に根ざした学びや体験活動を企画し、地元をより深く知り、関わることでふるさとを誇りに思う次世代の人材育成をすすめます。
- 地域の自然、歴史、文化、産業、人を教材にした学び、体験を通して、子どもたちがふるさとの魅力や課題に気づき、地域の一員としてふるさとに愛着や誇りを持つ教育に取り組みます。
- 白鳳期創建の古代寺院である国指定特別史跡斎尾廃寺跡や建築年代が明らかな民家では山陰地方最古の国指定重要文化財河本家住宅などの歴史文化資源を後世に残していくとともに、文化・芸術活動、振興に取り組む人材、団体の育成に取り組みます。

重点業績評価指標 (KPI)	目標値	基準値
今住んでいる県や市町村の歴史や自然に関心をもっている割合	80% (R11)	70% (R6)

【具体的な事業】

- ・ 琴浦 My スター☆事業の推進
- ・ 琴浦こども塾運営
- ・ ことうら子どもパーク運営
- ・ ことうらキッズコンサートの実施
- ・ 文化財の公開活用と団体の活動支援
- ・ 所有者等が行う文化財の保護活動へのガバメントクラウドファンディング等による財政支援
- ・ 町内文化資源の活用整備と情報発信
- ・ 子ども会活動支援
- ・ 地区公民館キッズ事業

◆アンケート、ワークショップ、Liqid等の意見◆

- ・ 小中の給食便りのレシピ（作り方）をみんながみる事が出来たらいい
- ・ 若者が「琴浦が好き」と胸を張れるほどの郷土愛が強い町になって欲しい
- ・ 伝統文化がたもたれてみんなが暮らしやすい町になって欲しい
- ・ 文化活動が活発にできるように側面支援していく事が大事



基本目標 【2】	【すこやか】 誰もが健康で生きがいをもって輝けるまちを目指す
本町の特徴	<p>○地域や事業所での健康や食育に関する教室を開催し、幅広い世代への健康づくりの推進に取り組んでいます。</p> <p>○住民が検診を受診しやすい環境の整備や検診の必要性の啓発、電話やハガキ等による受診勧奨を行い、検診受診率向上に取り組んでいます。</p> <p>○認知症の人が尊厳を保ちながら、可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、子どもから高齢者まで全ての年代を対象とした認知症への正しい理解の普及啓発や認知症の人やその家族を支援するネットワークの構築と支援体制の推進に取り組んでいます。</p> <p>○孤立防止や介護予防を目的として、町民の社会参加・社会交流を促し、居場所づくりや見守り体制の整備を進めています。</p> <p>○住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるよう、生活支援コーディネーターが生活支援サービスの担い手やボランティア活動の取り組み等をマッチングし、地域での支え合いの仕組みづくりを推進しています。</p>
数値目標	<p>○健康寿命の延伸（R11）</p> <p>1年延伸（男性 80.11 歳、女性 84.11 歳）</p> <p>※基準値 健康寿命の数値 男性 79.11 歳、女性 83.11 歳（R4）</p>
基本的方向	<p>○個人・家庭への健康増進の働きかけと地域や各団体、職場等と連携しながら健康づくりを総合的に推進します。</p> <p>○町民一人ひとりが自らの力で生きがいを持って社会と関わり、心身ともに充実した生活をおくることのできる町を目指します。</p>

《具体的な施策と重点業績評価指標(KPI)》

① 持続可能な健康づくりの推進

- 生涯にわたり、健康に生活していくため、年代別の特徴に応じた健康づくりを推進します。
- ライフステージ毎のニーズに応じた運動ができる環境整備に取り組みます。

重点業績評価指標（KPI）	目標値	基準値
国保特定検診受診率	55.0%（R10）	34.8%（R5）
歯周疾患検診受診率	10.0%（R11）	6.8%（R5）
健康優良法人認定事業者数	5社（R11）	2社（R5）
運動習慣の定着割合	60%（R11）	49.6%（R5）

【具体的な事業】

- ・若年層からの健康づくりの啓発
- ・検診受診率向上の仕組みづくり
- ・健康経営の普及啓発
- ・各団体等と連携した食育の推進
- ・トレーニングルームの充実と活用推進
- ・子ども向けのスポーツ教室の実施
- ・ウォーキング事業の推進
- ・コンディショニングコーディネーター等による体力づくり教室

◆アンケート、ワークショップ、Liquid等の意見◆

- ・小中学生もしくは保育園から参加できる運動イベントを充実させて欲しい
- ・子どもの運動能力の向上、維持していくこと ・スポーツの町にしたい
- ・マイナースポーツ、パラスポーツに向けた取り組みを行うことで特色を出せると思います

② 高齢者が安心して暮らし続けられる地域づくり

- 認知症施策に基づく取り組みや介護予防の活動を推進します。
- 高齢者が活躍できる場を推進します。
- 高齢者の孤立防止を図ります。

重点業績評価指標 (KPI)	目標値	基準値
65歳以上の地域での活動（週1回以上）の参加率	50.0% (R11)	45.3% (R4)
認知症サポーター養成者数	350人 (R7～R11)	64人 (R5)
地域ケア会議における個別事例の検討件数	50件 (R7～R11)	10件 (R5)

【具体的な事業】

- ・介護予防サークル活動支援や参加促進、新たなサークルの立ち上げ支援の実施
- ・本人の状態に応じた介護予防教室の実施
- ・認知症の人やその家族等が互いに支え合うための相談・交流の活動支援
- ・認知症サポーター養成講座の実施
- ・高齢者層に対する活躍の場の提供
(シルバー人材センター、ボランティア団体等との連携)
- ・地域ケア会議を生かした個別課題の解決
- ・高齢者の見守り体制の整備

◆アンケート、ワークショップ、Liquid等の意見◆

- ・高齢者の集える機会が減り、自宅にこもりがちになり、体力など衰え、認知症等になられていないか心配
- ・財政の負担を減らすために元気な高齢者を増やしなが、若い世代への支援を手厚く
- ・一人暮らしの高齢者への支援の充実 ・子どもや高齢者の見守りシステム

③ 読書バリアフリーの推進

- 視覚に障がいがあったり、ディスレクシア（文字の読み書きに困難がある障がい）など、読書困難者が利用しやすい資料の拡充を進めます。

重点業績評価指標（KPI）	目標値	基準値
デージー※ ³ 、大活字本やLLブック※ ⁴ の貸出冊数	1,650冊（R11）	1,577冊（R6）

【具体的な事業】

- ・多様な読書のカタチを提供する障がい者サービスの推進

◆アンケート、ワークショップ、Liqid等の意見◆

- ・図書館サービスの充実
- ・デジタル技術を活用して直接接しなくても、図書の貸し出しができるように

※3) DAISY（デージー）：Digital Accessible Information Systemの略

視覚障がい、発達障がい、知的障がいや、活字をそのままの大きさで読めない人など、普通の印刷物を読むことが困難な方のために、活字図書を音声で録音した資料

※4) 日本語が得意ではない方や、知的障がいのある方などのために、やさしく短い言葉で、絵文字、イラスト、写真を使って、わかりやすく読みやすく書かれた本



基本目標 【3】	【しごと】 魅力ある産業が生み出す地域経済循環を実現する
本町の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○市町村別農業産出額は県内 2 位の県内有数の農業が盛んなまちです。農林水産業の各分野において県内有数の各種事業所などを有し、多様な農林水産業を担う主体が活躍するまちとして産地振興のため様々な支援を行っています。 ○本町の農林水産業を担う者の生産性向上を目指しスマート農業機械の導入支援を行っているほか、新たな担い手の確保・育成のため、都市圏から地域おこし協力隊として農業研修生を受け入れるなど生産組合と連携し産地が主体になって担い手を拡大し支える仕組みづくりを図っています。 ○県内町村でトップの生産・出荷高ならびに事業所数を誇っており、製造業と建設業を中心に経済・雇用を支えています。中でも生産高の高い産業は食料加工品で、全国平均より高く、強みのある分野と言えます。 ○町内にハローワークの出張所「しごとプラザ琴浦」を開設し、地域住民や事業所の利便性向上と雇用拡大に繋げています。
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> ○主要品目の年間販売額（梨、ブロッコリー、ミニトマト、白ネギ、繁殖和牛、酪農、グランサーモン、すいか）（R11） 57 億円 ※基準値 52.5 億円（R5） ○町内企業就職者数（R7～R11 年の累計） 1,007 人 ※基準値 1,007 人（R1～R5 年の累計）
基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○町内にある農林水産業生産団体の琴浦製品のブランド化による競争力を高めるための支援を行います。 ○情報社会における先進技術を積極的な活用により、農林水産業における省力化と生産性の拡大を図るとともに、生産部や関係団体と連携して町内外から町内の農林水産業に就業を希望する者に対し研修や経済的負担の軽減策を充実させ、持続可能な農林水産業を目指します。 ○若者や女性が魅力を感じる多様な就業の場の創出を支援するとともに、起業や創業がしやすい町を目指します。 ○地域内資源の積極的な活用、町内での消費喚起により地域のつながりを構築し、地域経済循環を促進するとともに、企業のイメージアップや地域における就職促進により人材確保を図ります。

《具体的な施策と重点業績評価指標(KPI)》

① 琴浦ブランド化の推進と販路拡大

- 町内特産品をふるさと納税の返礼品として、寄附者に送付することで琴浦ブランドの販売額・販路の拡大を支援します。
- 年間販売額1億円を超える主要品目のほか高品質を誇るぶどう、芝、牛乳、和牛、食鶏、とっとり琴浦グランサーモンをはじめとする本町の農畜水産物の生産体制の強化を農協や生産組合、事業所と連携した支援により、付加価値を更に高め、競争力の向上を図り、販路拡大に取り組みます。

重点業績評価指標 (KPI)	目標値	基準値
ふるさと納税の寄附額	7.0 億円 (R11 年度)	2.6 億円 (R5 年度)
主要品目の年間販売額 (梨、ブロッコリー、ミニトマト、白ネギ、繁殖和牛、酪農、グランサーモン、すいか)	57 億円 (R11)	52.5 億円 (R5)

【具体的な事業】

- ・ふるさと納税制度を活用した琴浦ブランドの推進と販路拡大
- ・ワイナリー整備支援による地域活性化の推進
- ・水産業の振興及び養殖漁業拡大に対する支援
- ・和牛の増頭支援
- ・農畜産業の振興及び支援

◆アンケート、ワークショップ、Liquid等の意見◆

- ・琴浦にある「資源」の再価値化
- ・新たな特産品の開発（企業とのコラボ等）
- ・畜産、漁業、水産業に従事する実直な人々の生活が安定し、後継者の心配も軽減されること

② 農林水産業の新技术を活用した生産性向上と担い手の育成

- 農林水産業への AI（人工知能）・ICT（情報通信技術）といった先端技術を活用したスマート農業機械の導入を進め、営農技術の向上、生産量の拡大、作業の負担軽減を図り、新規就業者の確保につなげます。
- 町内外に農林水産業の魅力を発信するとともに、各生産組織など産地が主体となつて行う担い手確保の取り組みへの支援や研修制度の充実・拡充、経済的負担軽減策により、新たな地域農業の担い手の確保と育成に取り組みます。

重点業績評価指標 (KPI)	目標値	基準値
スマート農業に新たに取り組む経営体数の累計	20 件 (R7～R11)	18 件 (R2～R6) ※見込み
農林水産業新規就業者数	40 人 (R7～R11)	39 人 (R2～R6) ※見込み

【具体的な事業】

- ・スマート農業の推進（通信拠点整備、栽培データを活用した営農等）
- ・農業イメージアップの促進
- ・意欲ある担い手に対する経済支援
- ・農業・漁業における研修制度による担い手確保
- ・産地 PR や担い手確保に努める各生産組織などが行う取り組み支援

◆アンケート、ワークショップ、Liquid等の意見◆

- ・生産・物流や収穫の効率化（AI やロボット等）
- ・農業、酪農後継者を求める事が最初
- ・地産地消で農業の振興と雇用の活性化につなげる
- ・農業機械導入の支援。肥料、農薬、燃料などの支援
- ・農業・林業も個々ではなく、グループで推進できる手段が欲しい（若手の育成も含めて）

③ 商工業の振興

- 事業承継の多様な選択肢を周知し、円滑な引継を促進します。
- 企業のイメージアップを推進するとともに、地域での就職を促進し、地域で活躍する人材の確保を図ります。
- 地域のつながりを構築し、住民と事業者、事業者同士の連携を強化することで、地域経済循環の促進を図ります。
- 新たな起業を支援するため、資金調達、経営相談、事業拠点の情報提供など総合的な支援体制を整備します。
- 廃校などとなり未利用となっている公共施設について、民間事業者等の起業、事業拡充などによる民間活用を推進するとともに、民間事業者等の参入による施設周辺の地域活性化を図ります。

重点業績評価指標（KPI）	目標値	基準値
町内企業就職者数（R7～R11年の累計）	1,007人	1,007人 (R1～R5年の累計)
未利用財産の民間事業者等による活用	累計4件(R11年度)	0件(R5年度)

【具体的な事業】

- ・事業承継の啓発と支援
- ・人材確保に対する支援
- ・BUYコトウラ運動の促進
- ・起業創業に対する助成・支援
- ・未利用財産の活用による地域活性化（起業・創業を含む）

◆アンケート、ワークショップ、Liquid等の意見◆

- ・「基盤産業」のしっかりした経済を背景とした町にする
- ・どの産業を選んでも収入が得られる
- ・暮らしやすい環境と適度な経済とのバランスが取れた町だと思う
- ・地産地消を行い地域経済を循環させ、誰もが関わる機会が持てるイベントや交流の場をもうける
- ・既存の物を活かす、NEW 活用法を提案していけたら（古×新の融合に若年層は価値を感じると思うから）



基本目標 【4】	【ひと】 新しいひとの流れをつくり、暮らし続けることができるまちをつくる
本町の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○町外在住者によるまちづくりへの参画や町内での短期就業など、琴浦町と関わる関係人口を増やすことで人材不足解消、人口減少の抑制につなげています。 ○きめ細やかな移住希望者の相談対応、専用ホームページを中心とした情報発信や補助金等の制度整備のほか、住民団体等の民間と連携した移住者サポートを行い、転出抑制と移住者の増加につなげています。 ○道の駅を核とした町内周遊により、食・自然・歴史・体験・土産物をキーワードとした観光振興を推進している。
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> ○人口社会減数（R7 から R11 年の累計） 400 人以下 ※基準値 410 人（R1 から R5 年の累計） ○IJU ターン者数（R7～R11 年度の累計） 800 人 ※基準値 746 人（R1 から R5 年度の累計） ○観光入込客数（R11） 93 万人 ※基準値 83 万人（R5）
基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○本町と縁を結び、多様な形で町と継続的に関わる人の創出・拡大に取り組み、まちづくりを担う人材確保と将来的な移住へとつなげます。 ○ライフイベントに合わせた IJU ターンに対する支援を継続しつつ、特に進学・就職で県外に出た若者に対する U ターン施策に積極的に取り組みます。 ○道の駅から他の観光拠点に人を誘導し、周遊・滞在に向けた取り組みを推進することで、観光客を地域に呼び込み、関係人口の拡大を図ります。

《具体的な施策と重点業績評価指標(KPI) 》

① 関係人口の創出・拡大

- ふるさと納税との連携を強化し、関係人口の受け皿となるコトウラファンサポーター制度を拡大します。
- ファンサポーターをはじめとする関係人口との交流を通じて外からの意見を政策に取り入れ、町外の住人と町の新たな関わり方を構築します。
- ふるさと納税制度による町外者との関係を構築し、関係人口の創出と拡大を推進します。

重点業績評価指標 (KPI)	目標値	基準値
人口社会減数	400 人以下 (R7～R11 年累計)	410 人 (R1～R5 累計)
ふるさと納税の寄附者数	25,000 人(R11 年度)	10,238 人(R5 年度)

【具体的な事業】

- ・ふるさと納税・企業版ふるさと納税の推進
- ・コトウラファンサポーターの任命
- ・おてつたび事業推進による交流人口創出
- ・副業人材の活用
- ・韓国麟蹄郡との相互交流の実施

◆アンケート、ワークショップ、Liquid 等の意見◆

- ・新しい取組を行って、琴浦町にきた人がもう一回訪れたいという町になって欲しい
- ・若者の意見を地域活動や町づくりに反映させる ・外国人の受入対策、言語、生活支援あったらいい

② 移住・定住の促進

- きらりタウン赤碕の分譲地への移住・定住を推進するため、定期借地権制度により推進する。
- 移住定住専門ホームページや広報紙などを活用した情報発信を積極的に行い、本町のイメージアップや町への関心を喚起することで、移住検討者の IJU ターンの意欲を高めます。
- 移住定住アドバイザー配置等の相談体制整備、空き家の活用など IJU ターン者への各種支援策を整備します。

重点業績評価指標 (KPI)	目標値	基準値
きらりタウン赤碕分譲地の残区画数	0 区画 (R11 年度)	17 区画 (R5 年度)
空き家を活用した移住定住件数	70 件(R7～R11 年度)	62 件(R1～R5 年度)

【具体的事業】

- ・定期借地権による移住・定住促進
- ・移住定住アドバイザーの設置
- ・移住定住に関する各種助成制度の整備
- ・空き家ナビの運営
- ・お試し住宅の活用
- ・学生インターンシップ事業の推進
- ・地域ブランディングの推進
- ・人口減少対策の推進
- ・滞在可能な交流拠点整備への支援

◆アンケート、ワークショップ、Liqid等の意見◆

- ・誰もが暮らしやすい町であり、誰もが「琴浦町で暮らせて良かった」と思えるそんな町であって欲しい
- ・学生、若者の活動拠点になったらいい

③ 観光振興の推進

- 道の駅を核とした町内周遊を促進するため、道の駅を拠点に情報発信やイベント開催を行います。
- 観光情報発信の強化を行うため、SNS・ホームページ・冊子の効果的な活用に努めます。
- 観光消費の拡大を図るため、観光資源・土産物・グルメ・アウトドアの活用を推進します。

重点業績評価指標（KPI）	目標値	基準値
観光入込客数	93万人（R11）	83万人（R5）

【具体的な事業】

- ・道の駅を核とした町内周遊の促進
- ・SNS・ホームページ・冊子を活用した観光情報発信の強化
- ・観光消費の拡大へ向けた観光資源×土産物×グルメ×アウトドアの活用

◆アンケート、ワークショップ、Liqid等の意見◆

- ・2つの道の駅を生かして、他にはない設備、イベントをやる。キャンプ場の併設とか
- ・イベントが多くなり、宣伝と全国に発信して欲しい！
- ・観光も、琴浦町の農業・漁業の生産物を売りにし、山から海までの自然を生かしたリゾートを考えるべき

<p>基本目標 【5】</p>	<p>【くらし】 安心・安全な持続可能な暮らしを守り、町民と共に未来のまちを創る</p>
<p>本町の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○住民の暮らし方や働き方の多様化により、時間と場所に左右されないサービス、より質の高いサービスの提供が求められているため、行政手続きのオンライン化等、デジタルを活用した取組みを推進しています。 ○自主防災組織の結成や育成、支え愛マップの作成や防災士の資格取得を支援することで、自助、共助の取組みを推進しています。 ○町内では地域活性化団体が数多く活動しており、このうち16団体が連携して、中間組織にあたる琴浦まちづくりネットワークを設立しています。また、町内3地区で地域運営組織が立ち上がり活動を定着させており、地域の課題を自分たちで解決しようという住民の意識が高まっています。 ○地域の交通に関しては、一般利用とスクールバス利用の混乗の継続、運行管理の見直し、地域における共助交通の推進のほか、各路線を大型商店を経由するよう見直すなど、買い物環境の確保も進んでいます。 ○「ことうらゼロカーボンチャレンジ宣言」を宣言し、町民・事業者・行政機関が協働し、脱炭素の取組を積極的かつ継続的に進めています。
<p>数値目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○温室効果ガス排出量の削減 2050年までに琴浦町における温室効果ガス排出量実質ゼロ ○公民館と地域で協働して活動を行った地区数（R11） 7地区 ※基準値 5地区（R6）
<p>基本的方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○住民生活の多様化への対応や、限られた人員で質の高い行政サービスを提供するために、行政のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進します。 ○自分たちの地域は自分たちで守るという意識のもと、災害に備え自主防災組織等が地域で行う防災活動の取組みを支援し、自助・共助、災害への備えなど防災意識の醸成を図っていきます。また、避難所環境の整備や備蓄品、危機管理体制の整備など公助の取組みを強化します。 ○誰もが住み慣れた地域で安心して自分らしい暮らしが実現できるように、地域の特性を活かした主体的なまちづくりを推進します。 ○バス車両を利用した路線維持を基本としながら、デジタル技術の活用、共助交通の推進、車両の更新など持続可能な交通体系の構築を目指します。

	<ul style="list-style-type: none"> ○地域全体でスポーツ、文化及び人権等に関する生涯学習の機会創出・環境整備を推進します。 ○プラスチック再資源化に伴う分別回収、生ごみの堆肥化等の循環、太陽光等の再エネルギーの活用等を推進することにより、2050年までに琴浦町における温室効果ガス排出量実質ゼロを目指します。
--	---

《具体的な施策と重点業績評価指標(KPI)》

① 行政分野における DX の推進

- デジタルの力を活用した社会課題の解決や行政事務の効率化に向けた取組みのほか、必要な環境整備を推進することで、持続可能な住み続けられるまちづくりを目指します。
- スマート窓口システムを導入し、マイナンバーカードを利用した書かない窓口を目指し、来庁者の負担軽減、滞在時間の短縮を図る。

重点業績評価指標 (KPI)	目標値	基準値
世帯転入時における来庁者滞在時間短縮	60分 (R11)	150分 (R5)

【具体的な事業】

- ・各種手続き等のオンライン化とマイナンバーカード活用による行政サービスの向上
- ・公衆用 Wi-Fi 等、通信インフラの機能強化
- ・AI 等デジタル技術を活用した行政事務の効率化
- ・デジタル技術を活用した、議会・行政情報の提供体制の整備
- ・DX を活用したライフイベントに関する行政手続の円滑化
- ・マイナンバーカードを利用し、情報の受動入力を実施（書かない）
- ・ライフイベントに伴う複数申請を総合窓口で一括受付を実施（回らない）
- ・マイナンバーカードの活用推進（健康手帳・図書館利用等）
- ・マイナンバーカードを利用し、利用申請を行うと同時に本人確認を実施

◆アンケート、ワークショップ、Liquid 等の意見◆

- ・行政手続のオンライン化（土日利用含め）
- ・オンラインによる問合せ・相談対応
- ・公共施設等の web 予約化
- ・マイナンバーカードを使った証明書発行等がスムーズに出来ると良い

② 安心安全な地域づくり

- 地域での防災研修会などを通して、地域における自助・共助の取組を支援するとともに、避難所環境の整備、町備蓄品整備を進めるほか、防災訓練の実施等により危機管理体制を強化します。
- 自治会が、今後も住民自治活動に自立的かつ活発に取り組めることを目指した支援を行います。

重点業績評価指標 (KPI)	目標値	基準値
自主防災組織の結成率	75.0% (R11)	61.0% (R6)
自治会消滅数 (合併を除く)	0 (R7~11 累計)	0 (R6 まで)

【具体的な事業】

- ・ 自主防災組織への資機材整備支援、支え愛マップづくり等地域防災力向上事業
- ・ 避難所環境向上のための資機材、非常食や水等の備蓄品整備
- ・ 様々な災害を想定した防災訓練の実施
- ・ 部落自治振興交付金の交付

◆アンケート、ワークショップ、Liquid等の意見◆

- ・ 災害時に備え、逃げ道をきれいにしておく
- ・ 防災関連情報に関して住民に早期に周知するシステム構築
- ・ 移動手段のない中山間地域に暮らす高齢者のための連絡システム

③ 持続可能なまちづくり

- 免許を持たない人や高齢等により自家用車の運転ができなくなった人でも、日常生活に必要な移動が可能となるような交通の仕組み作りを進めます。
- JR 浦安駅及び赤碕駅を整備・活用することで持続可能なまちづくりを目指します。

重点業績評価指標 (KPI)	目標値	基準値
交通空白地有償運送 (共助交通) 年間延利用者	1,000 人 (R11)	539 人 (R5)

【具体的な事業】

- ・ 買い物環境の整備
- ・ 公共交通体系の見直し (アプリ・AI 活用、キャッシュレス決済の導入、自動運転、MaaS 等)
- ・ 住民ドライバーを活用した地域交通の推進 (共助交通、ライドシェア)
- ・ 駅舎の整備・活用

◆アンケート、ワークショップ、Liquid等の意見◆

- ・ 車での移動販売・バス・乗り合いタクシー等の充実
- ・ 駅へ自動改札の導入

④ 地域活動の推進

- 地区公民館や地域運営組織による活動により、地域における様々な課題を住民が主体的に解決する地区ごとの特色に合わせた体制づくりを推進します。
- 多様な主体によるまちづくりを目指し、地域の活性化や課題解決を目的とした自主的な取組みを推進します。

重点業績評価指標 (KPI)	目標値	基準値
公民館と地域で協働して活動を行った地区数	7 地区 (R11)	5 地区 (R6)

【具体的な事業】

- ・地域の課題解決を目指す地域運営組織の形成支援
- ・地域づくり団体活動支援の推進
- ・公民館と地域運営組織の連携促進

◆アンケート、ワークショップ、Liquid 等の意見◆

- ・各公民館活動が活発化しているようでうれしい限り
- ・各団体が町を良くしたいと頑張っているが横の繋がりが薄い

⑤ 暮らしやすい地域づくり

- 水を安定的に供給するために、老朽管の布設替えに合わせて、水道管の耐震化を進めます。
- 下水道を安定的に継続するため、管路の点検・調査を実施するとともに、ストックマネジメント計画に基づき、施設の修繕・改築を実施します。
- 公民館と地域の協働による地域課題への取組など、地域活動の推進と活動拠点の整備を進めます。
- 生涯学習の機会創出や環境整備など社会教育施設の機能強化に取り組み、町民の生涯学習活動を支援します。

重点業績評価指標 (KPI)	目標値	基準値
水道管耐震化率	12% (R11 末)	5.81% (R5 末)
公民館と地域で協働して活動を行った地区数 (再掲)	7 地区 (R11)	5 地区 (R6)

【具体的な事業】

- ・行政情報伝達システム整備事業
- ・生活インフラの維持・整備
- ・公民館と地域の協働による地域活動の推進と活動拠点の整備
- ・生涯学習センター等の学び・遊び場の環境整備
- ・住民ニーズに応じた図書館の情報拠点化
- ・東伯総合公園等の施設機能の集約及び再整備 (長寿命化)
- ・公共施設の再整備
- ・地域で活躍する人材の育成

◆アンケート、ワークショップ、Liquid 等の意見◆

- ・上下水道インフラの維持
- ・図書館サービスの充実
- ・まなタンに個室の学習室が欲しい、無理なら Wi-Fi 環境と廊下では無い静かな学習スペースがほしい

⑥ 環境に配慮した地域づくりの推進

- ことうらゼロカーボンチャレンジ宣言に基づき、地球温暖化対策の取組を進めて行きます。

重点業績評価指標 (KPI)	目標値	基準値
温室効果ガス排出量	実質ゼロ (2050年時点)	—

【具体的な事業】

- ・ごみの減量化とリサイクルの推進 (4Rの推進等)
- ・プラスチック再資源化に伴う分別回収
- ・生ごみの堆肥化等による循環
- ・太陽光等の再生可能エネルギーの活用

◆アンケート、ワークショップ、Liqid等の意見◆

- ・ペットボトル、牛乳パック等リサイクルの収集(回収)場所を増やして欲しい
- ・メルカリのように不要品を見える化して、地域内でリユースすることで地域内の廃棄コストの削減

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



2015年9月の国連サミットで採択された2030年までの持続可能な世界を実現するための17のゴールから構成された国際目標